

本校のコロナ対応の考え方について

札幌日本大学中学校・高等学校
校長 浅利 剛之

札幌日本大学中学校・高等学校の生徒及び保護者の皆様、こんにちは。11月になり新型コロナウイルスの感染が拡大し、ますます生活に気をつけなければならない状況になっております。生徒の皆さんには、学校生活の様々な場面で制約を課しご不便をかけています。申し訳なく思っておりますが、今しばらくご協力をお願いします。

さてまずは本校が現在実施している主な感染予防対策をあらためて整理してお知らせいたします。校内における手の消毒、教室の消毒、そしてマスク着用の徹底は当初から継続して実施しております。9月からは校内にサーモグラフィーや非接触型体温計を使用して登校時に教員による検温を始め、現在も毎日続けております。11月からは、毎時間の窓の換気、各教室への大型加湿器の導入、部活動や体育時のマスク着用、食事時の対面全面禁止、15分以内の食事、マスクなしで15分以上同じ空間にいることの禁止、大声の発生の禁止、毎日の寮生活の安全徹底、JRの乗車指導、スクールバスの更なる増便等、感染予防対策を強化しています。また各自の一日の行動やマスクをつけていない時間等の履歴を記録して毎朝提出する独自の取り組みも始めております。どんなに感染予防対策を強化しても完全ではありませんが、可能な限りのことをすることでリスクは最小限に抑えられると考えて対応しております。

次に本校の現在のコロナ対応の考え方についてお話しします。基本的にはまずは「通常の学校生活」をおくることを第一に考えております。学習、部活動、行事やその他の活動を含めて、上記の感染予防対策を徹底した上で実施していきたいと考えております。その中で世間の感染の状況も考慮し、感染予防対策の徹底によりリスクがかなり低減されると判断したものは実施を検討し、ある程度リスクが考えられるものは実施方法の変更や延期、そしてやむを得ない場合は中止という手順を踏んでいきます。可能な限りの「通常の学校生活」にこだわる理由は3つあります。一つは、長びくコロナ対応で生徒や教職員が、大変精神的に疲労しているということです。いわゆるコロナ疲れといわれているものです。見た目には何も変化がないようにみえてもそれぞれが一連の長引く対応で知らず知らずのうちにストレスを蓄積していることを強く感じます。予定が変更、中止になったり、新しいことが始まったりということで大きなストレスを生み出しています。ですから予定を変更したり、授業を突然オンラインに切り替えたりということは極力避けて、可能な限り予定通りに進めていくのが好ましいと考えております。世間では感染予防のために生活の自粛だけが強く推奨されていますが、それに伴ってストレスなど精神的な弊害が大きな問題になっていることはあまり取り上げられません。感染予防はもちろんですが、同時に生徒や教職員のストレスの軽減も考えバランスよく乗り切っていくことが大事だと考えていま

す。二つ目の理由は、感染が本格的に拡大する可能性が高い冬の到来はこれからだということ。上記で述べた「通常の学校生活」は第一に考えますが、やはり感染が拡大すれば通常とは違う形態をとらざるをえないことになります。状況によってはオンライン授業等の措置をとっていきますが、上記の理由で可能な限り短い期間にしたいと考えております。1月、2月を見越して今は「通常の学校生活」で乗り切りたいと考えています。仮に今からオンライン授業等の措置をとれば何か月も学校に登校できないという事態も考えられるからです。そして3つ目の理由はオンライン授業そのものについてです。現在登校を自粛している生徒には、教室のライブ授業を映して家から参加することにより出席単位として認めておりますが、画面越しの黒板が見にくいといわれております。本校は春の休校の際にはいち早く双方型オンライン授業を実施しノウハウは蓄積されてきましたが、あくまで授業がまるごとオンライン授業になったときのことで、対面とオンラインの生徒両方に同時に授業を実施となれば、授業の質の維持が難しいということがあります。つまり、基本的に対面か全員オンラインかの選択にならざるを得ません。またオンライン授業が長びけば、春の経験から学習定着に影響が大きいと考えています。ですから仮に全面オンライン授業に切り替わっても極力期間を短くする必要があると考えています。

以上本校の考え方をお伝えしました。色々な考え方があるのは十分承知しているところですが、本校の現在の考えをご理解していただければ幸いです。また生徒の皆さんは「通常の学校生活」をおくるために、各自感染予防の意識を高く持って生活してほしいと思います。皆さんご協力よろしく願いいたします。